淮園小学校　学校通信

かけ橋

九重町立淮園小学校
令和６年　１１月２９日
文責　　校長　河村雅文

淮園小学校 HP の QR コードです。
よかったら HP もご覧ください。

淮園ふれあいまつりへの参加ありがとうございました

１１月１６日（土）は、朝からお昼過ぎまで、淮園ふれあいまつりを行いました。前半の体育館での子どもたちの学習発表では、たくさんの地域・保護者の皆様に参加していただき、子どもたちの日頃の学習成果を見ていただきました。子どもたちもたくさんの方に見てもらえていい緊張感の中、自分たちの力を出し切れていたと思います。後半の研修部主催の防災の取組では、玖珠ＬＰガス協会の方を講師に招いて、電気を使わない炊飯の仕方や「防災時ＬＰガスができること」という演題でお話を聞くことができました。実際に有事があった場合、電気が使えない状態になり、学校や家庭では食事・排泄等が大きな課題になります。今回は、防災食をテーマにして、ガスで電気を起こし、袋詰めしたお米を熱湯で茹で上げることで食を確保できることが分かり、貴重な体験ができたと感じています。当日は、会の運営に当たり、朝７時台から役員さんが準備に来校してくれて、テント設営や焼き芋のおき作りをしていただきました。参加してくださった保護者・役員、地域の皆様、大変お世話になりました。

（上段は、前半の子どもたちの学習発表の様子）　（下段は、防災体験の準備や防災食作りの様子）

淮 WAI ウィークの取組ありがとうございました

１１月６日（水）～１２日（火）は、淮 WAI ウィークの取組を行いました。学期毎に行う取組で、今回は６月に続いて２回目の取組でした。各家庭で話し合って決めた取組内容（お家での仕事や家庭学習の約束）を、一週間点検表につけて、我が子のできたことや頑張ったことを励ましていこうという取組です。子どもの決めた取組内容は、靴そろえ・洗濯物たたみ・お風呂掃除・ペットの世話・夕飯のご飯つぎ・食器片付けや、前日までに学校の準備を済ませるといった内容です。取組結果は下表の通りです。

学年	提出人数	取組肯定率 ４段階評価（％）	お家の方からのコメント
低学年（１・２年）	７人	３．２（８０％）	○忘れたりしなかったりしたこともあったので声かけしていった。 ○難しいことにもチャレンジして偉かったです。淮 WAI ウィークが終わってもチャレンジする気持ちを忘れずに頑張ってほしい。 ○いつもしてくれることなので、新しいことをとも思ったがやめた。仕事は定着していて、嫌がらずにとりくんでくれる。 ○声かけするとよく手伝ってくれた。淮 WAI ウィークが終わっても進んで手伝ってほしい。 ○夕方、犬の散歩に行ってくれて助かりました。 ○学校から帰ってからみんなの靴そろえをしていた。食器片付けだけでなく、食器洗いもしてくれた。
中学年（３・４年）	４人	３．５（８８％）	
高学年（５・６年）	６人	３．５（８８％）	
全体集約	１７人	３．４（８５％）	

※全校１９人のうち、１７人分提出していただきました。（上表は提出率８９％の結果です）ご協力ありがとうございました。
※家庭での仕事に関しては、裏面に関連記事を掲載していますので、目を通してください。

今回、淮 WAI ウィークを設定し、家庭で子どもに仕事を任せたり、自分で決めたことを実行したりして、我が子をほめていく取組を行いました。「淮ＷＡＩウィークが終わっても家での仕事を続けてほしい」とか「取組前から家庭で決めてやっていることなので、新たに内容を増やしたりせずにいつも通り取り組んだ」という保護者のみなさんの意見も複数いただきました。

教育動向や受検、学習法で知られているベネッセ教育総合研究所が立ち上げている「ベネッセ教育情報～みつかる、明日のまなび～」というＨＰに、家庭で仕事を任せることには５つの意義があるという記事が掲載されています。本校の取組と関連があるので、紙面を借りて、引用・紹介いたします。

【家庭で仕事を任せるメリット】

1. 子どもの自己管理力が高まる

お手伝いを頼まれた子どもは、ほかにやりたいことがあっても「自分がやらなきゃみんなが困るから」と自分を管理して取り組むことになります。この積み重ねによって、学習・生活面でも「イヤだけど宿題しなくちゃ」「先に明日の準備しておこうかな」と自己管理ができるようになりやすいのです。自己管理力だけでなく、もちろん責任感ややり遂げる力も高まると期待できます。

2. 問題解決力が身に付く

子どもがお手伝いに取り組む中で、うまくいかないことがいろいろと出てくるはず。その際、試行錯誤することで問題解決力や考える力が養われるのです。こうした力が身に付けば、人生で困難にぶつかっても投げ出さずに取り組めるようになります。つまりお手伝いは、いわゆる《生きる力》にもつながるのです。

3. 手先が器用になる

お手伝いの種類にもよりますが、お手伝いで細かい作業を行う場合、手先の器用さが身に付きやすい面もあります。手先が器用だと、学習面でも非常に役立ちます。たとえば筆記用具で文字を書くにしても、定規やコンパスなどで図形を描くにしても、道具をうまく使いこなすことができれば、大きな自信になります。

4. 脳の働きが活性化する

お手伝いでは、手で食材などいろいろなものに触れたり、匂いをかいだり、目で見て変化を感じたりと、五感をフル活用することになります。五感を使うことは脳にとって刺激になり、脳の活性化につながると考えられるのです。

5. ワーキングメモリが鍛えられる

家事をする時には、手順や段取りを考えたり、一時的に物事を記憶したりして、ワーキングメモリ（作業記憶）を駆使しながら作業を行います。お手伝いを通じ、このワーキングメモリが鍛えられる可能性があります。ワーキングメモリは、勉強はもちろん、生活にも役立ちます。たとえば学校生活でも、「5 時間目は体育だから、遊びを少し早めに切り上げて、着替えてトイレに行っておかなきゃ」といった感じで、先を見越して行動できるようになるのです。

（ベネッセ教育総合研究所　「ベネッセ教育情報　みつかる、明日のまなび」より引用）

上記効果以外にも、仕事・手伝いをして感謝されることで、子どもは「自分は家族の役に立てた」という有用感が得られます。また、これまで家族が担っていた仕事を体験することで、「家族はいつも自分のために苦労してくれていたんだ」という感謝の気持ちも育つのではないでしょうか。そして、何より、家族間の会話やコミュニケーションが自然と増えてくると思います。もうすぐ 12 月になり、各ご家庭では年末年始の大掃除が始まります。家族で話し合って、子どもたちも家族の一員として、仕事を任せてみてはいかがでしょうか。